

【第三次】

# 明德地区活性化計画書

—心豊かで安全・安心なまちづくり—



令和3年4月1日策定

**元気で輝く明德地区協議会**

# 目次

1	はじめに	1
2	明德地区の概要	2
	(1) 明德地区の位置	
	(2) 明德地区の生い立ち	
	(3) 明德地区の現状	
3	明德地区のまちづくりの基本理念・基本方針等	5
	(1) 基本理念	
	(2) 基本方針	
	(3) まちづくりの指標	
	(4) 明德地区活性化計画の実施期間	
	(5) 明德地区活性化計画の実施体制	
4	明德地区活性化基本計画	6
	基本計画Ⅰ 明德地区の福祉・人づくり	
	基本計画Ⅱ 明德地区の文化伝承・環境美化	
	基本計画Ⅲ 明德地区の健康・体育	
	基本計画Ⅳ 明德地区の安全・安心	
5	明德地区まちづくりアンケート調査結果（概要）	14

## 1 はじめに

元気で輝く明德地区協議会は、平成21年8月に設立され、12年目を迎えました。5年ごとに「明德地区まちづくりアンケート」調査を行い、その結果を基に第1次、第2次明德地区活性化計画書を作成し「明德地区のまちづくり」を推進して参りました。

「心豊かで安全・安心な明德地区」を目指すことを基本理念とし、「誰もが心豊かで住んでよかったといえる地域づくり」「ふれあいと絆にあふれた地域づくり」「人々がともに支え合い、安全で安心な暮らしができる地域づくり」の3つを基本方針として、様々な活動に取り組んで参りました。

「人づくり」「安全・安心」「健康・体育」「環境・美化」「文化・伝承」の5つの専門部会を柱として、地域課題の解決に向け取り組み、成果を上げているところです。納涼祭・運動会・文化祭は、明德地区の3大事業と捉え、特に力を入れています。この3大事業は、年々参加者が増え、地区住民の皆様のお楽しみとなっています。この事業を盛り上げることで、住民同士が相互に繋がり、人と人との絆づくりの輪が広がっています。これは、皆様のまちづくり事業へのご理解とご協力のおかげであると感謝しております。

この度、第1次・第2次明德地区活性化計画書の取り組みを振り返り、さらなる地域の活性化の実現に向けて地域の現状や課題を整理して、地域住民の皆さんに親しめるまちづくりを推進するため、令和2年7月～8月に全世帯を対象に「明德地区まちづくりアンケート」調査を実施し、その調査結果を踏まえ、「第3次明德地区活性化計画書」を作成しました。アンケートの中で特に感じたのは、高齢者に対する事業が乏しいという事です。高齢者の皆様が元気で安心して地域で暮らし続けられるように、生活支援や介護予防等の取り組みと地域の人材や福祉資源等を組み合わせ、共に助け合い、支えあう活動を進めて行きたいと思っております。そのために、現在の「人づくり部会」を「福祉・人づくり部会」と改名し高齢者福祉に力を入れていきます。「環境・美化部会」は地域の諸事情に合わせ「文化・伝承部会」に組み入れ、一本化いたしました。以前の5専門部会から4専門部会に変更いたします。

この「第3次明德地区活性化計画書」は、明德地区に住む地域住民が「基本理念」や「基本方針」のもとに地域住民と一緒に取組む活動目標を定めたものであり、今後の「明德地区のまちづくり」を推進していくための指針となるものです。明德地区を取り巻く状況の変化に対応するように、5年後を考えた計画としていますが、状況を見ながら見直しを行うこととしています。

最後に、明德地区も少子高齢化が進む中、町内会の加入世帯も年々減少しています。各町内会の活動の活性化と、地域の身近な課題を地域住民がお互いに協力し、支えあい助け合いながら解決できる町づくり協議会の活動が重要になっています。

元気で輝く明德地区協議会の活動にご賛同いただき、明德地区が心豊かで明るく住みよい安全・安心な地域として発展できますよう、皆様のご理解とご支援をお願い致します。

元気で輝く明德地区協議会  
会長 土橋 周美

## 2 明德地区の概要

### (1) 明德地区の位置

明德地区は、鳥取駅の西側に広がる市街地です。



(左上は千代川、中央下は鳥取駅)

### (2) 明德地区の生い立ち

明德地区は、昭和24年に、日進、富桑、美保小学校より分離独立して明德小学校が設置されたことに伴い、誕生した地域です。これまで4884人の児童が卒業（令和2年3月現在）し、今日に至っています。



昭和26年当時の明德小学校  
(校舎左上は千代川、下側は線路)



現在の明德小学校（60周年記念写真）

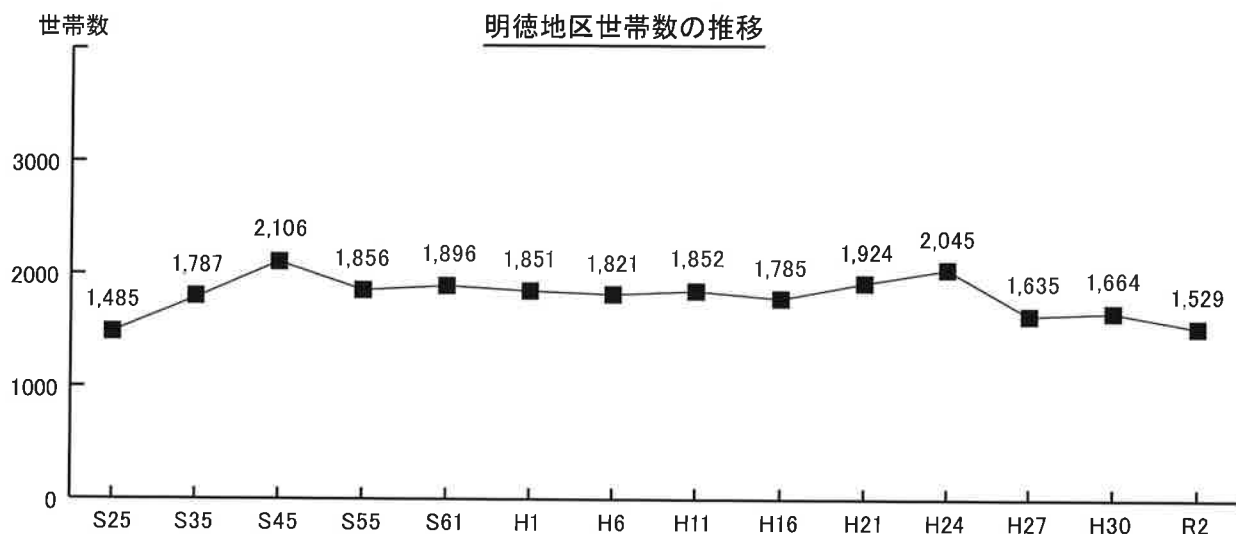


### (3) 明德地区の現状

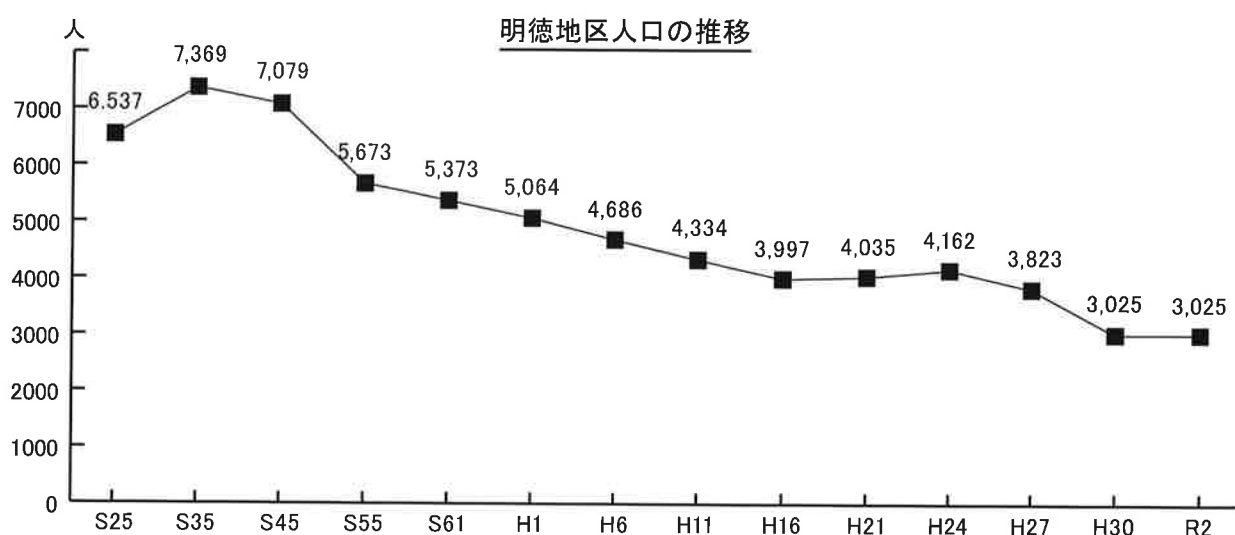
#### 【明德及びその周辺地区における年齢別人口】

令和2年度の明德地区の人口は、2,688人です。年齢構成別にみると、65歳以上は955人であり、本地区の人口に占める割合は35.53%になります。これは、鳥取市の65歳以上の割合29.23%に対して、6.3ポイント高くなっています。また、14歳以下においては、鳥取市の14歳以下の割合が12.99%に対して、本地区は12.39%と鳥取市より0.6ポイント低くなっています。以上のことから、本地区は少子高齢化であることが言えます。  
(出典 2020年 市勢要覧)

#### 1949年(昭和24年)以降の世帯数と人口の推移



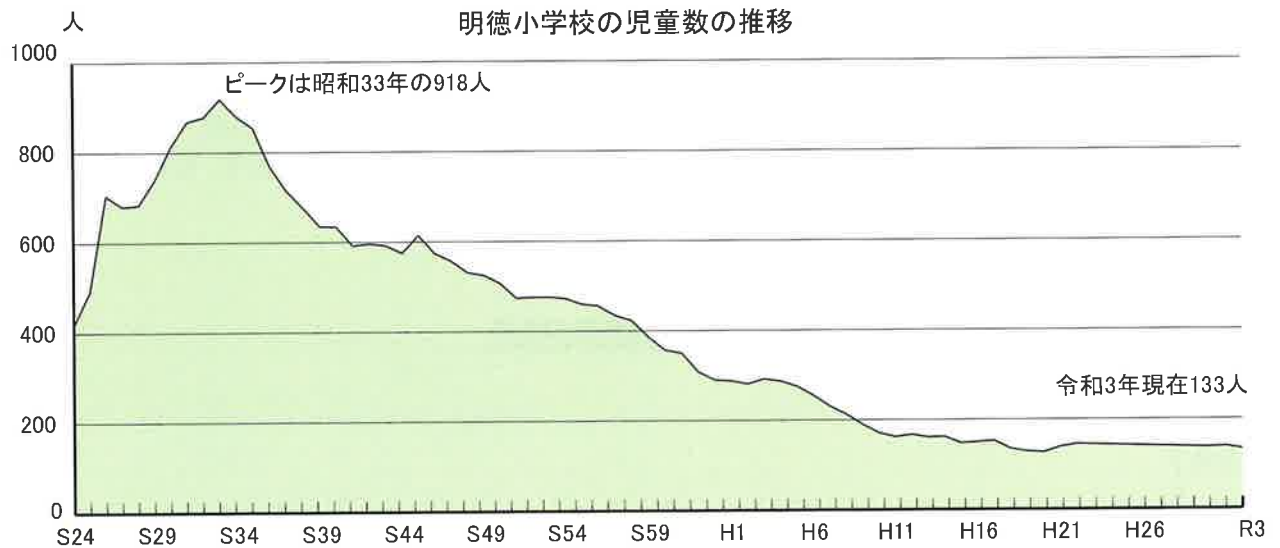
・出典＝昭和25年～昭和55年 国勢調査・昭和61年～平成24年 住民登録  
 ・町名＝瓦町、今町1丁目、今町2丁目、東品治町、幸町、扇町、行徳1丁目、行徳2丁目、行徳3丁目



人口の減少が進んでいる反面、マンションの増加等により世帯数はやや増加傾向にあります。  
 注1) 人口集計は「町別」とされているため、南町・瓦町・今町1～2丁目・東品治町・幸町・扇町・行徳1～3丁目の各年4月1日時点の住民登録者数を基に作成しています。  
 注2) 令和2年度のデータは、東品治、行徳3丁目(複数の公民館区域が存在する町内にある)を除いた数値でグラフを作成しています。

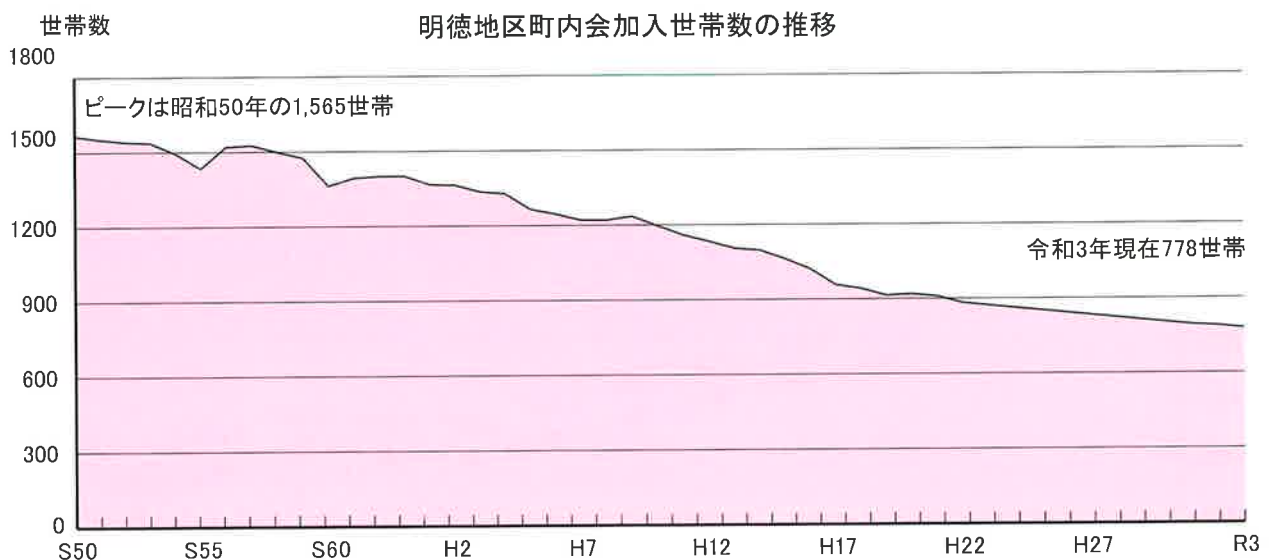
### 【明德小学校の児童数】

明德小学校の児童数は、昭和33年度918人をピークに大きく減少し、令和3年5月1日現在の児童数は133人でありピーク時に対して779人の減少となっている。



### 【明德地区町内会加入世帯】

明德地区内の町内会加入世帯数も、徐々に減少しています。令和2年度は、最も加入世帯の多かった昭和50年度の1,565世帯より777世帯減少し、788世帯となっています。



(出典 明德地区町内会町名簿)

上記のことから、当地区も少子高齢化が進むとともに、町内会加入世帯の減少により人間関係の希薄化、町内会組織の弱体化傾向にあります。また近年の異常気象や温暖化などにより自然災害の多発化があり、「安全、安心で住みやすい明德地区」であり続けるためには、いざという時に近隣で助け合うことが必要です。住民同士の助け合いは日頃からの住民間のつながりから生まれてきます。社会が変化する中、地域のつながりをどのように作っていくのか、どう守っていくのかを住民一人ひとりが考え、実践していく必要があると考えます。

### 3 明德地区まちづくり基本理念・基本方針等

#### (1) 基本理念

これまでの地区内の各団体・組織・住民が独自に活動してきた取組を踏まえ、より一層活力があり、魅力にあふれた「心豊かで安全安心な明德地区」とすることを目標とし、協議会を中心に、各団体、組織・住民が協力しながら地域活動の充実・強化を図り、「元気で輝く明德地区」を創造していきます。

#### (2) 基本方針

- ア) 誰もが心豊かで、住んでよかったといえる地域づくり
- イ) ふれあいと絆にあふれた地域づくり
- ウ) 人々がともに支え合い、安全で安心な暮らしができる地域づくり

#### (3) まちづくりの指標

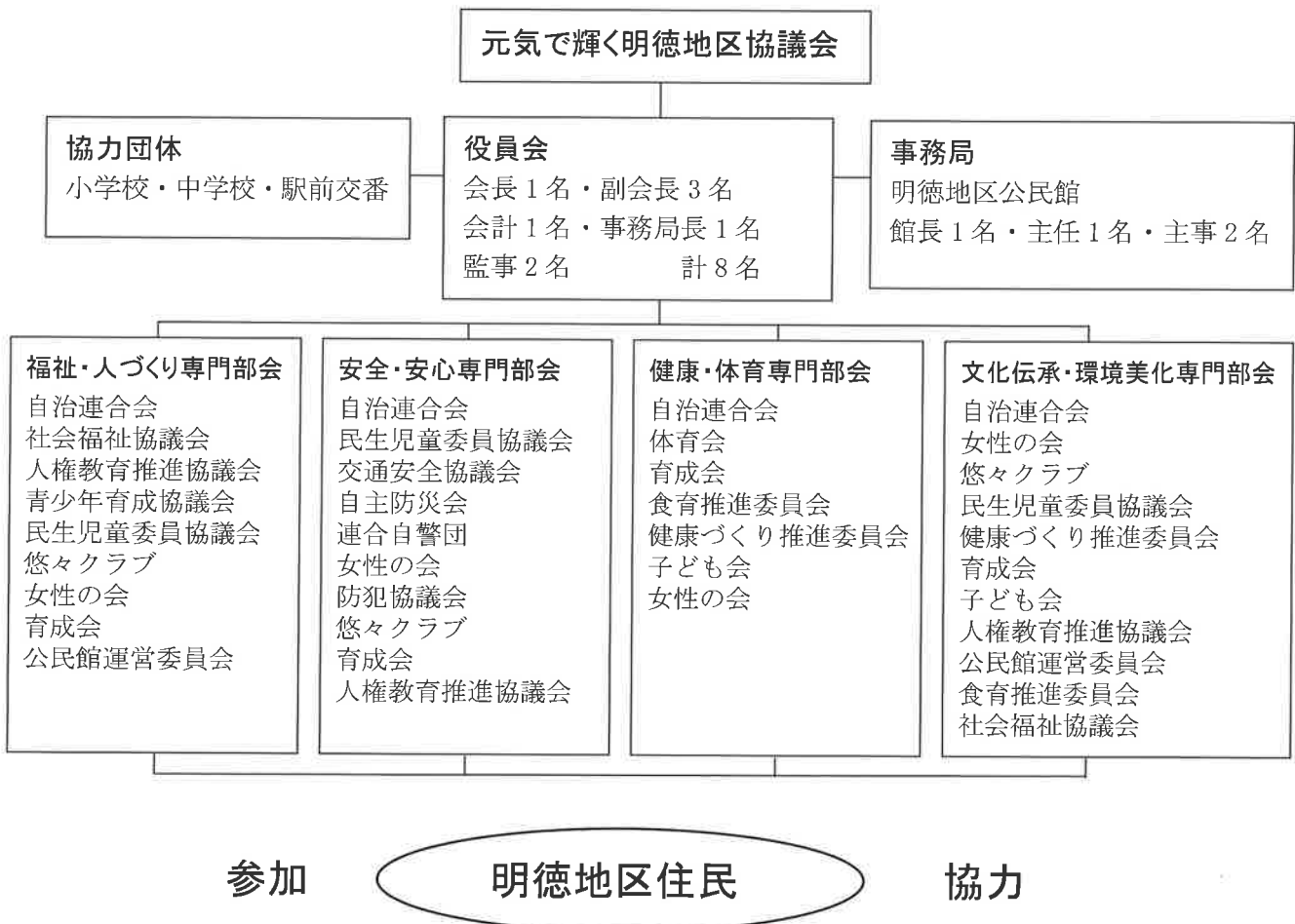
明德地区の活性化を目指して町内会に加入している世帯数の減少の抑制をめざします。

町内加入世帯数 平成27年3月 827世帯 → 令和2年4月 788世帯  
(△39世帯)

#### (4) 明德地区活性化計画の実施期間

第三次活性化計画の実施期間は、令和3年4月から令和8年3月までとします。

#### (5) 明德地区活性化計画の実施体制



## 4 明德地区活性化基本計画

### 基本計画Ⅰ 明德地区の福祉・人づくり専門部会

#### 1 取組方針

出会い、ふれあい、絆を大切にしたりより良い人間関係を作るとともに、地域ぐるみで青少年の育成と高齢者福祉の充実を図る

#### 2 現状と課題

##### 【思いやりの向上】

- <現状> 前回調査同様、近所の人とは顔見知りであり、挨拶をしたり話をしたりするが、他町内会、他世代の人とは交流がなく、特定の人との交流のみになっている。年代が変わり、子ども達と親の顔が一致しないことが多くある。
- <課題> 高齢者は、生活上の問題について身近に相談する場がない。障がい者対応では満足している人は半数以下で、取り組みの改善が進んでいない。

##### 【地域と学校との連携】

- <現状> 子育て世代は、夫婦共働きが増えているので、ボランティアや公民館活動などに協力することが各家庭の重荷や負担になっている。地域と児童との交流のチャンスが少ない。
- <課題> 共働き世代の増加に伴い、学校行事や地域の行事への協力が少なくなっている。

##### 【交流する場の拡大】

- <現状> 公民館が狭いため、ストレッチなど運動をする時、もう少し広いといい。活動できる内容や人数が制限される。バリアフリーの問題などもあり高齢者が気楽に立ち寄れるスペースがない。
- <課題> 地区住民の憩いの場である、公民館の拡充はできない現状がある。地区の三大事業である納涼祭、運動会、文化祭などを中心とした交流の場を工夫する。

##### 【後継者の育成】

- <現状> 各種団体の役員は、若い人の参加が少ないため年々高齢化している。
- <課題> 各種事業について、中・高生を企画・運営段階から取り入れることを考える必要がある。

##### 【子育て交流の充実】

- <現状> 町内に子どもが少なくなっているため、行事などを見る機会や参加することが少ない。
- <課題> 子育てに関して相談する場や、他の親子と交流する機会をつくる必要がある。

##### 【高齢者をとりまく支えあい・助けあいについて】

- <現状> 高齢者について、専門職のサービスはあるが地域の支援が少ない。
- <課題> 地域での「支えあい・助けあい」を広げるために福祉・人づくり専門部会で検討会を設置する。



### 3 具体的な取組

活 動 内 容	事 業 内 容
① 地域と学校との連携について	ア) 小学校児童による「あいさつ運動」標語募集事業の実施
② 夏休み期間における小学生への学習支援	ア) 大学生によるインターンシップ(職場体験)を活用しての学習支援事業等
③ 子育て交流の支援について	ア) 子育て中の保護者への支援事業 * 未満児を対象とした子育て事業「びよんびよんクラブ」への活動支援や、保健師等による保護者への指導、助言事業
④ 地域住民及び高齢者等への交流の場の充実、支援について	ア) 現在、実施している「ふれあいデイ」への支援の充実を図るとともに、高齢者の集えるサロンの開設を検討する
⑤ 各種事業への若者の参加育成について	ア) 納涼祭への参加 * 企画運営から中・高校生を参加させる ・アンケート結果によると、参加したいイベントはバザーで(かき氷、アイスクリーム、ジュースなど)
⑥ 地域での「支えあい、助けあい」を広げるために	ア) 地域での話し合いのメンバーの選出及び鳥取市社会福祉協議会(地域支えあい推進員)との協議会の設置。
⑦ お互いの人権が大切にされる地域を目指して	ア) 「人権講演会」、「町別人権学習会(小地域懇談会)」等への参加協力で、高齢者、障がい者、子どもの人権等、様々な人権問題について学ぶ。



明德地区の三大事業  
夏の納涼祭



ふれあいデイ作品作り

## 基本計画Ⅱ 明德地区の文化伝承・環境美化専門部会 取組方針

住民が住み続けたいと思う地域の環境整備を推進し伝承文化を大切にしながら、地域と学校との連携を図る。

### 2 現状と課題

#### 【各行事への参加者、協力者について】

<現状> 町内会単位での活動に参加する人や協力する人が少なくなっている。  
特に若者の参加、協力が少ない。

<課題> 若年者からの役員を選出する。(子ども、高齢者が参加するイベントの創出を検討する)

#### 【地域と学校との連携】

<現状> 学校支援ボランティア、子ども見守り隊等地域と学校とのつながりがある。

<課題> 町内に子どもが少なくなっているため、行事が少なくなっている。

#### 【交流の場の拡大】

<現状> 子どもたちが近所の人、町内の人たちとの交流がしやすい。

<課題> 若年者にイベントの企画・運営に参加してもらう。  
文化祭を通して世代を越えた交流の場とする。

#### 【ゴミ出しルールの徹底】

<現状> ゴミの収集場所において、アパート等新しく引っ越しして来た人のルール・マナーが悪い。

<課題> ・ゴミ出しマナーの徹底を各町内が啓発する。  
・マナー向上を図るため専門部会で研修を重ねる。



明德地区  
文化祭



明德小学校3年生と地区住民  
とで整備された花壇

### 3 具体的な取組

活 動 内 容	事 業 内 容
<p>① 豊かな自然や文化にふれる体験活動の支援</p> <p>② 明徳音頭の普及について</p> <p>③ 文化祭の開催について</p> <p>④ 環境問題についての地域住民への啓発について</p> <p>⑤ 小学生との環境づくりについて</p>	<p>ア) 多くの住民が参加しやすいように、各町内の子ども会、各部等と連携をして行事を見直す。 各世代が交流できるようなものを検討する。</p> <p>イ) 聖神社の歴史を紹介するため、継続して冊子を作成したり、関係者により研修会を行う。</p> <p>ア) 各イベントに明徳音頭を取り入れさらに普及に努める。</p> <p>ア) 地区住民の交流の場とし、地区・学校・各団体・各教室等の学習発表の場とする。</p> <p>ア) 部会員が中心となり、地区住民への環境問題等について研修会の開催や環境に関連する施設への視察などを実施する。</p> <p>ア) 小学生と合同で花いっぱい運動を展開する</p>



聖さん冊子



聖神社松田宮司さんによる、明徳小学校3年生への聖神社歴史授業

## 基本計画Ⅲ 明德地区の健康・体育専門部会

### 1 取組方針

健康で明るい地域づくりを目指し、住民が気軽に参加できるイベントなどを推進する。

### 2 現状と課題

#### 【各行事の活性化】

<現状> 各行事や祭りは世代間交流のいい機会であるが、参加者数が町内会で差があり、また、行事に参加する人は、いつも同じ人に固定されつつある。

<課題> ・住民が参加しやすいスポーツ大会の開催

#### 【体験活動や交流の充実】

<現状> スポーツに関して高齢者と若者との交流事業があまりない。

<課題> 誰もが参加しやすい、ニュースポーツなどを取り入れる。

#### 【食育の推進】

<現状> 地域で獲れた食材を使った料理教室や、季節毎のお菓子作り教室が開催されている。

<課題> 参加者が一部の人に限定されているので、大勢の人が参加しやすい工夫する。

#### 【健康づくりの推進】

<現状> 地区住民の健康を推進するための支援体制などの充実が図られていない。

<課題> 地区住民への健康に関する対策を推進する必要がある。



みんなで楽しめる  
ニュースポーツ・ボッチャ

小学校と合同の明德地区運動会





### 3 具体的な取組み

活 動 内 容	事 業 内 容
① 食育の推進について	ア) 食育の大切さを地区住民に広めるため、定期的に料理教室や部員への研修会を実施する。
	イ) 第1給食センター栄養士からの食に関する研修会を企画してみる。
② 地区住民の健康などに関する講演会や健康相談会の実施について	ア) 地区住民の健康に関して、外部講師による講演会や、市専門員による地区住民の健康に関する相談会などを実施する。
	イ) 地区住民の定期健康診断の受診率の向上を推進する。
③ ふれあいウォークの実施	ア) 子どもから大人まで参加出来る「ふれあいウォーク」を継続実施する。また、ふれあいウォークマップの改定を検討する。
④ 運動会の実施について	ア) 地区住民と小学校との合同運動会を地区体育会が中心となり継続する。また、実施にあたっては企画段階から、中・高校生を実行委員として参画させる。
	イ) 小学校との共催による運動会の環境づくりをするため、地区と育成会との校庭の草取りを実施する。
⑤ 体験活動について	ア) 地区住民が参加しやすいスポーツやニュースポーツ大会等を取り入れる。



子ども料理教室

文化祭にて健推による健康診断





## 基本計画Ⅳ 明德地区の安全・安心専門部会

### 1 取組方針

災害に強い地域づくりを目指すとともに、災害時における高齢者への支援体制を推進する。

### 2 現状と課題

#### 【安全な車道や歩道の確保】

<現状> 歩道上の障害物がけっこう多いように感じる。植木や商品等を置く家がある。歩道が狭く、道路に向かって斜めになっていたりして自転車、子ども、お年寄りなどが危ない。市道の夜が暗いので街路灯が必要。

<課題> 街路灯については、各町内負担のため電気代などの問題もあるが、LED への交換を進める。

#### 【交通ルール、安全意識の向上】

<現状> 自転車道の幅が狭く自転車が逆走している場面が多く見られる。自転車が歩道が無音で走り、急に人を追い越すので、子どもや高齢者が事故に合わないかいつも心配している。

<課題> 高齢者や地区住民への交通安全講習会を継続実施する。

#### 【避難場所の周知】

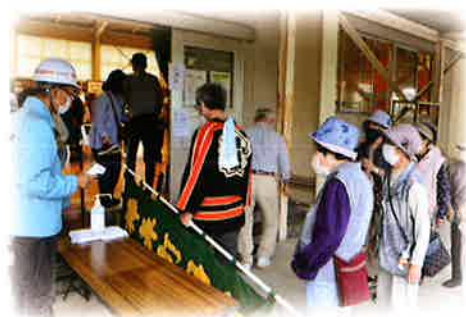
<現状> 前回調査と変わらず、未だ3割以上の住民が一時避難場所、二次避難場所がどこなのか知らない。

<課題> 各町内会の自主防災会などが主体となり、啓発活動を推進する。

#### 【非常袋の準備の徹底】

<現状> 前回調査と変わらず、災害に備えて、非常袋の準備をしている人が約3割である。

<課題> 年々準備については、その意識は向上しているので、更に啓発を徹底していく。



明德地区防災訓練

### 3 具体的な取組

活 動 内 容	事 業 内 容
<p>① 自主防災会の活動内容への支援、協力について</p> <p>② 地区の交通安全対策について</p>	<p>ア) 地区住民を対象としたアンケートの結果、避難場所を知らない住民が31.2%あり、前回の調査(平成27年)と比べると大きな変化はないが周知させることが大切である。このため、平成23年に作成した防災マップの改定版を作成する必要がある。</p> <p>イ) さらに、災害時での非常袋の備えの準備「している」が36.1%あるが、また備えのない人もあるので、その必要性についての啓発に努める。</p> <p>ウ) 自力で避難出来ない方への避難体制が「必要である」と思っている人が8割と前回調査より増加しているため、地区の連合自警団及び各種団体などとの連携した対策が急務である。</p> <p>エ) 災害時での近隣との情報が「共有が整っていない」・「わからない」と回答した人が約8割見られた。このことから、一人暮らし高齢者等への情報の共有支援対策が必要である。</p> <p>ア) 高齢者への交通安全対策について、関係機関と連携をほかり交通安全講習会などを開催する。</p> <p>イ) 各種団体による小学校の下校での見守り隊は継続実施し協力していく。</p> <p>ウ) トスク前の県道を駐車場へ行くため横断する人があり大変危険なので横断禁止措置の対策が必要である。</p> <p>エ) 地区の交通安全対策協議会による、自転車などのマナーについて対策を検討する。</p>



高齢者交通安全教室



明德地区交通安全協会による交通誘導

## 明德地区まちづくりアンケート調査結果（概要）

元気で輝く明德地区協議会

### I 調査の概要

○対象	788世帯 回収数 565世帯（回収率71.7%）
○回答者	男220人（38.9%）女284人（50.3%）不明61人（10.8%）
○年齢構成	20・30代 4.8% 40・50代 23.9% 60代以上63.2% 不明6.4%
○調査期間	令和2年6月30日～令和2年9月10日
○調査方法	明德地区全世帯に配布

### 結果まとめ

#### 【人を大切にしまちづくり】

人を大切にしまちづくりの各設問とも、「重要、やや重要」が約9割あり、『人を大切にすること、人との関わりが大切である』という意識が高い。

満足度では、「近所の人と顔見知りである」「出会った人にあいさつをすること」は、「満足」と回答した人が多いが、一方で、「公共施設のバリアフリー化」「生活上の問題について相談する場」「障がい者対応」では、満足している人は半数以下と、取り組みの改善が進んでいないようである。

#### 【道路や公共交通機関などの機能を活かした活力のあるまち】

道路や公共交通機関について、各設問とも9割以上の人が「重要、やや重要」を合わせた「重要」であると思っている。

しかし、「歩行者、自転車も交通安全ルールを守り、安全に対する意識が高い」「道路等に障害がある」等の満足度が低く、満足していない。

#### 【地域の景観を活かした憩いと潤いのまち】

地域の景観を生かした憩いと潤いのまちの各項目は、重要な事だという意識は高く持っている。また、地域内の景観の維持、緑化の意識も高いが、憩いの場としての地域の公園等への景観整備に不満が多くみられる。

#### 【生涯学習が充実した教育と文化のまち】

学校と公民館と地域のつながりを持つことは重要だという意見が多く、地域に対する世代を超えた交流の場であると認識している。

しかし、「満足度」をみると、各項目とも満足度は低く、特に次世代を担う若手の行事、催し、イベント等への参画を期待する意見が多くみられる。

#### 【明德地区の住みやすさ】

明德地区は、「住みやすい」（住みやすい、やや住みやすい）を合わせた）と感じている人は83.5%である、一方で、「やや住みにくい、住みにくい」を合わせた「住みにくい」と感じている人は5.2%である。

平成22年・平成27年調査とほぼ同比率の回答割合となっている。

#### 【防災対策と災害時における対応について】

一次、二次避難場所の周知については「知っている」が60.7%、「知らない」が31.2%あり、約6割が避難場所を周知している。前回調査、前々回調査と比べると、大きな変化は無く、ほぼ同様の割合となっており、依然として3割近くの人が避難場所を「知らない」と答えている。

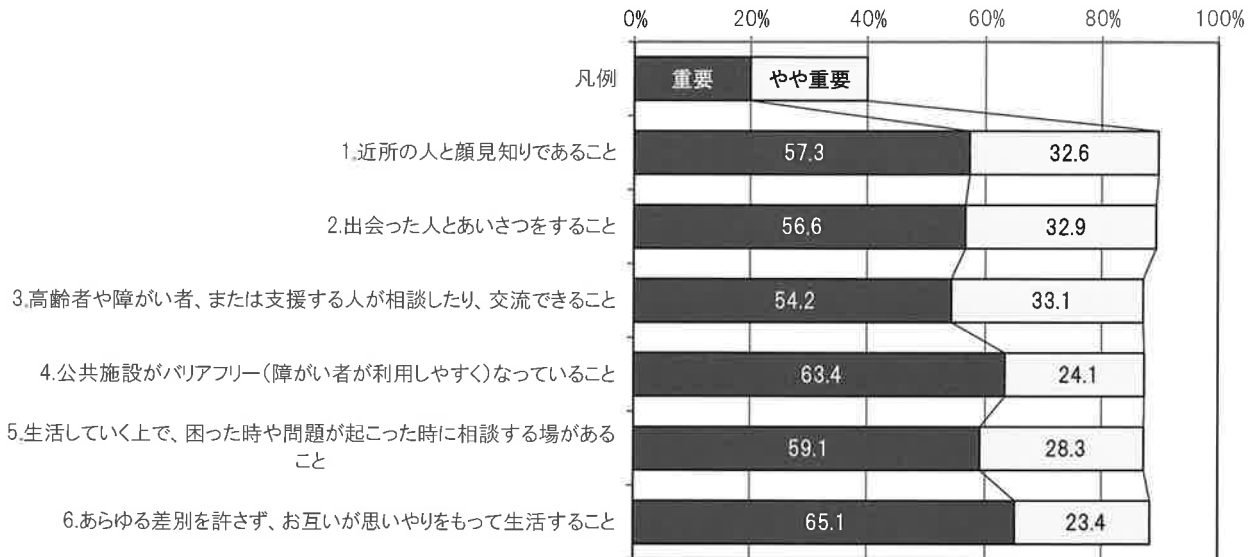
## Ⅱ 調査の結果

### 問1 明德地区が現在取り組んでいる各施策の重要度と満足度について

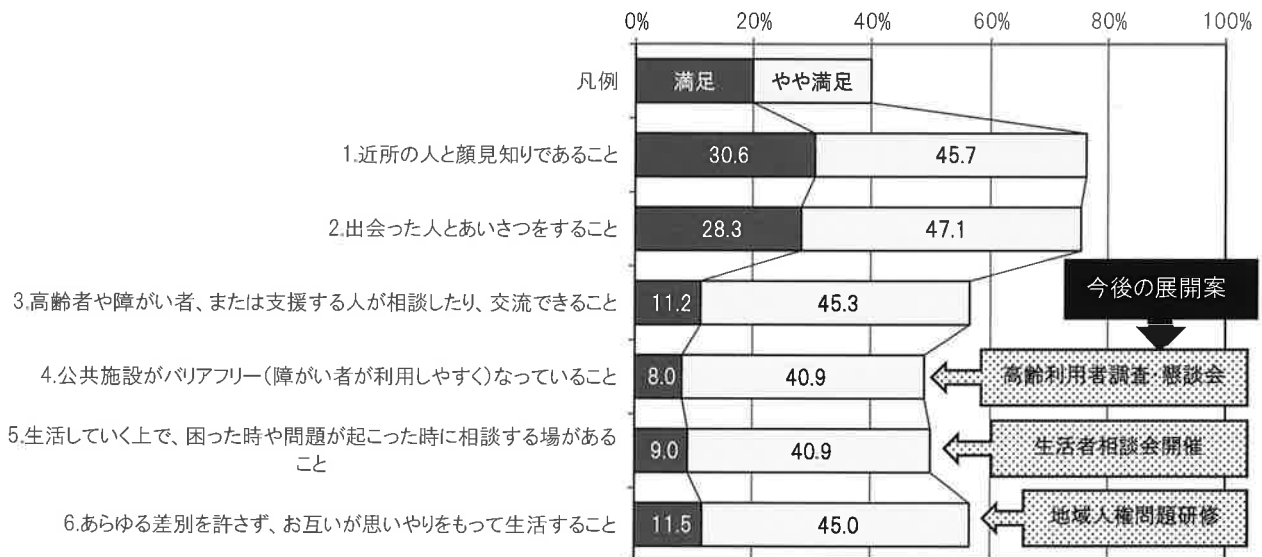
#### (1) 【人を大切にしまちづくり】

～人を大切にする意識は高いが、障がい者や生活でも問題を抱えている人への対応が課題～

人を大切にしまちづくり (重要度)



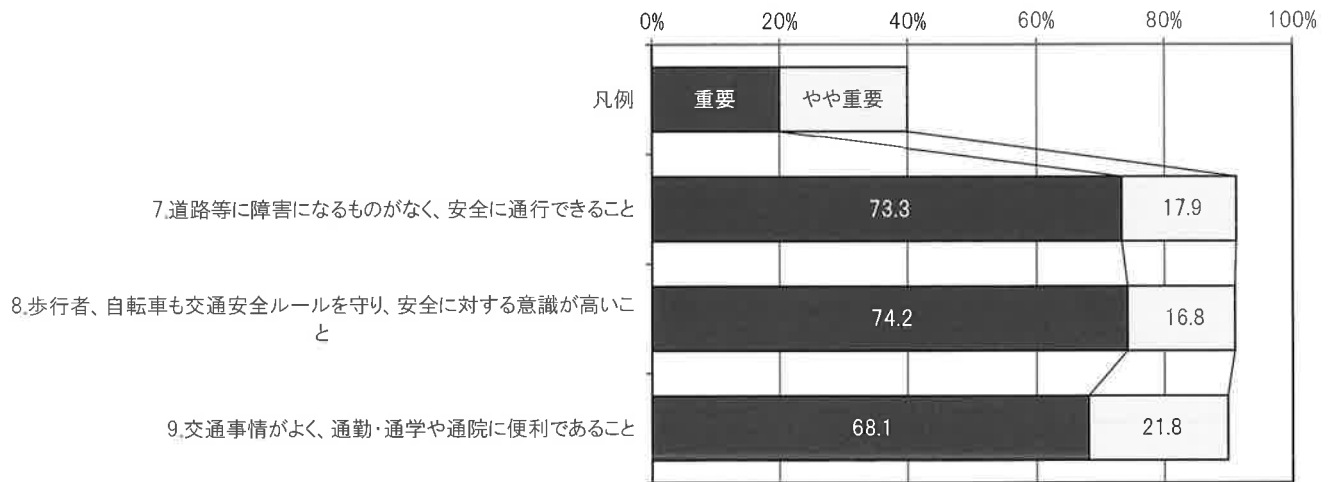
人を大切にしまちづくり (満足度)



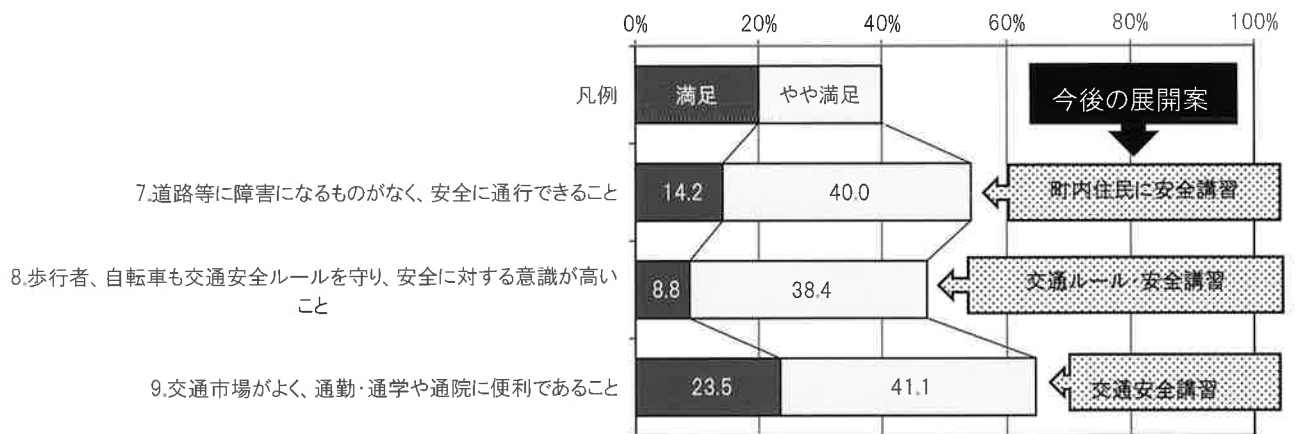
(2) 【道路や公共交通機関などの機能を活かした活力あるまち】

～交通ルールを守る意識が低い～

道路や公共交通機関などの機能を活かした活力あるまちづくり (重要度)



道路や公共交通機関などの機能を活かした活力あるまちづくり (満足度)

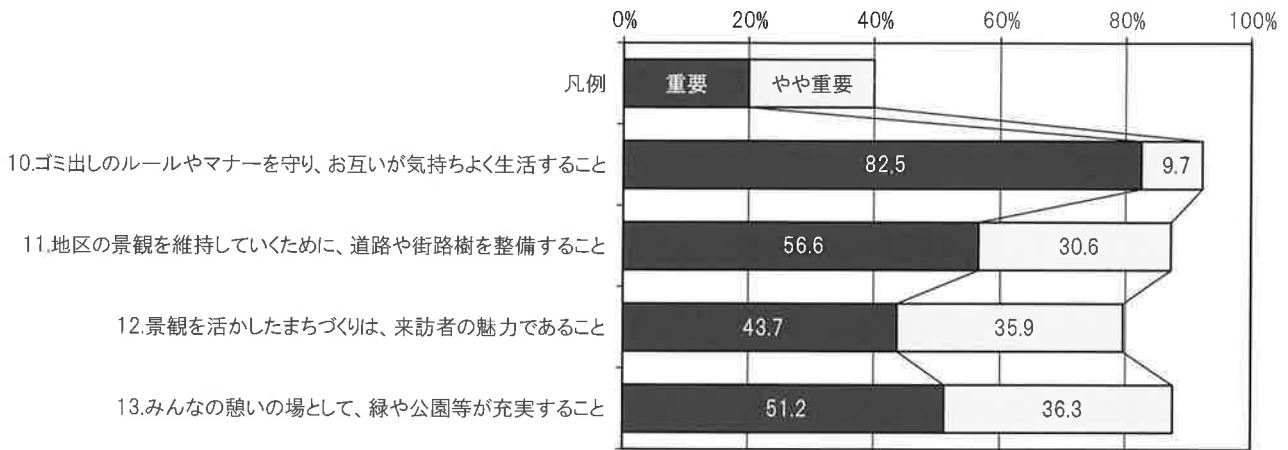




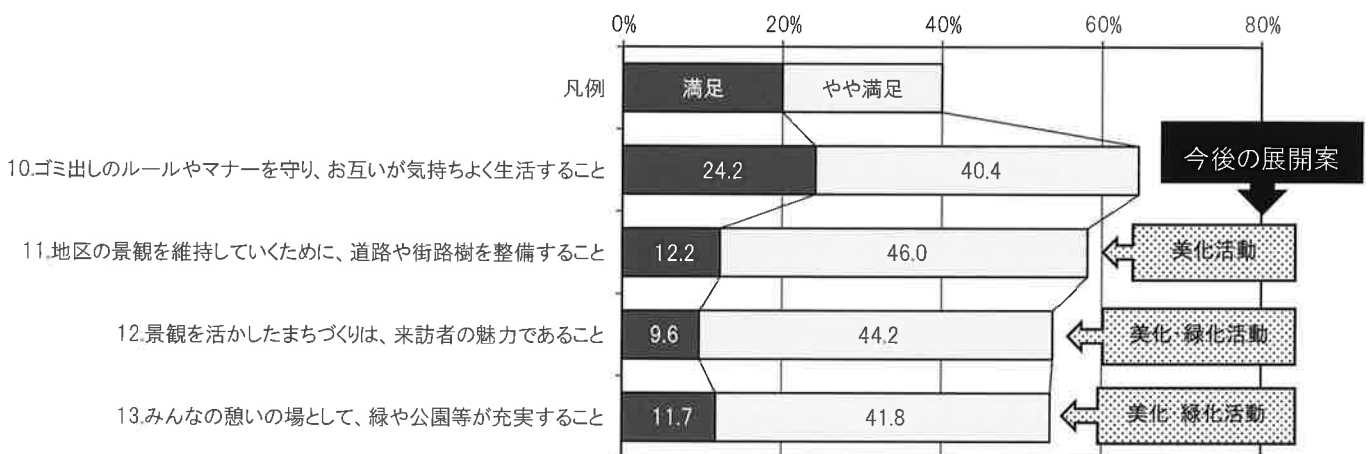
(3) 【地域の景観を活かした憩いと潤いのまち】

～ゴミ出しのルールやマナーに関心があり、地域の公園などの景観整備に不満～

地域の景観を活かした憩いと潤いのまち (重要度)



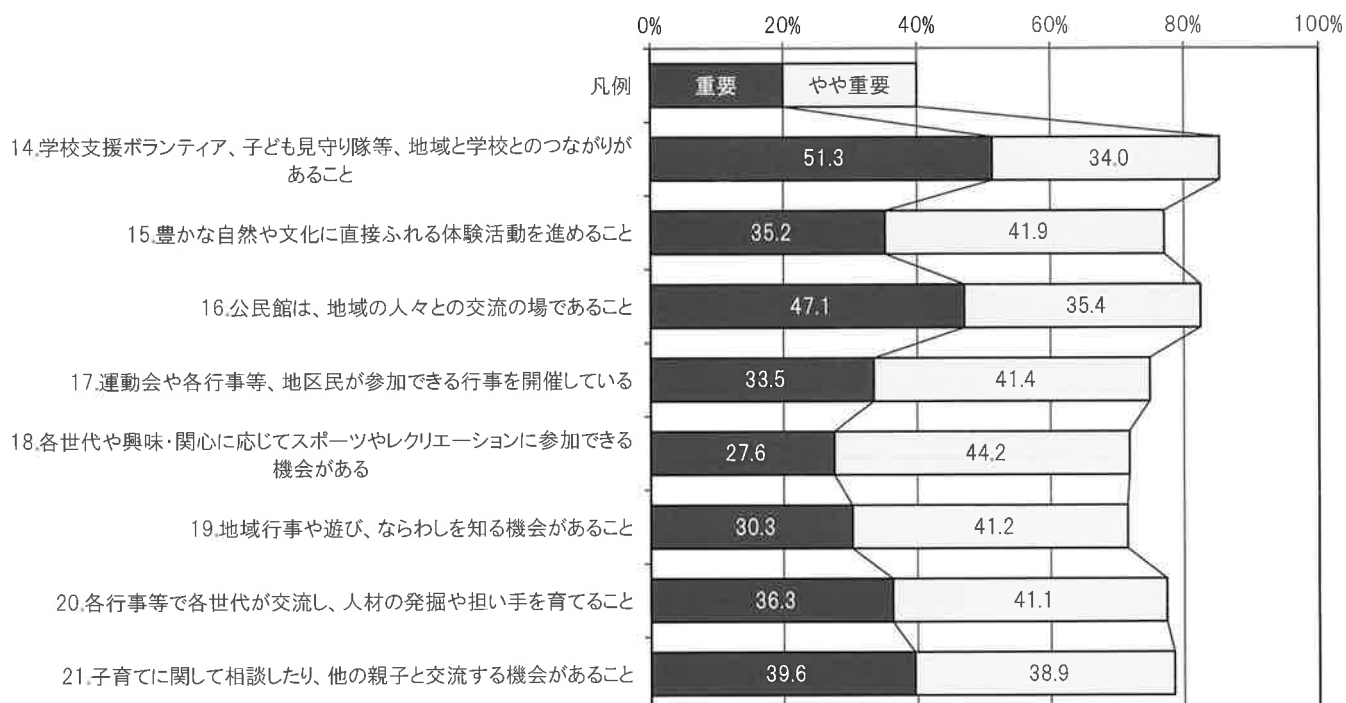
地域の景観を活かした憩いと潤いのまち (満足度)



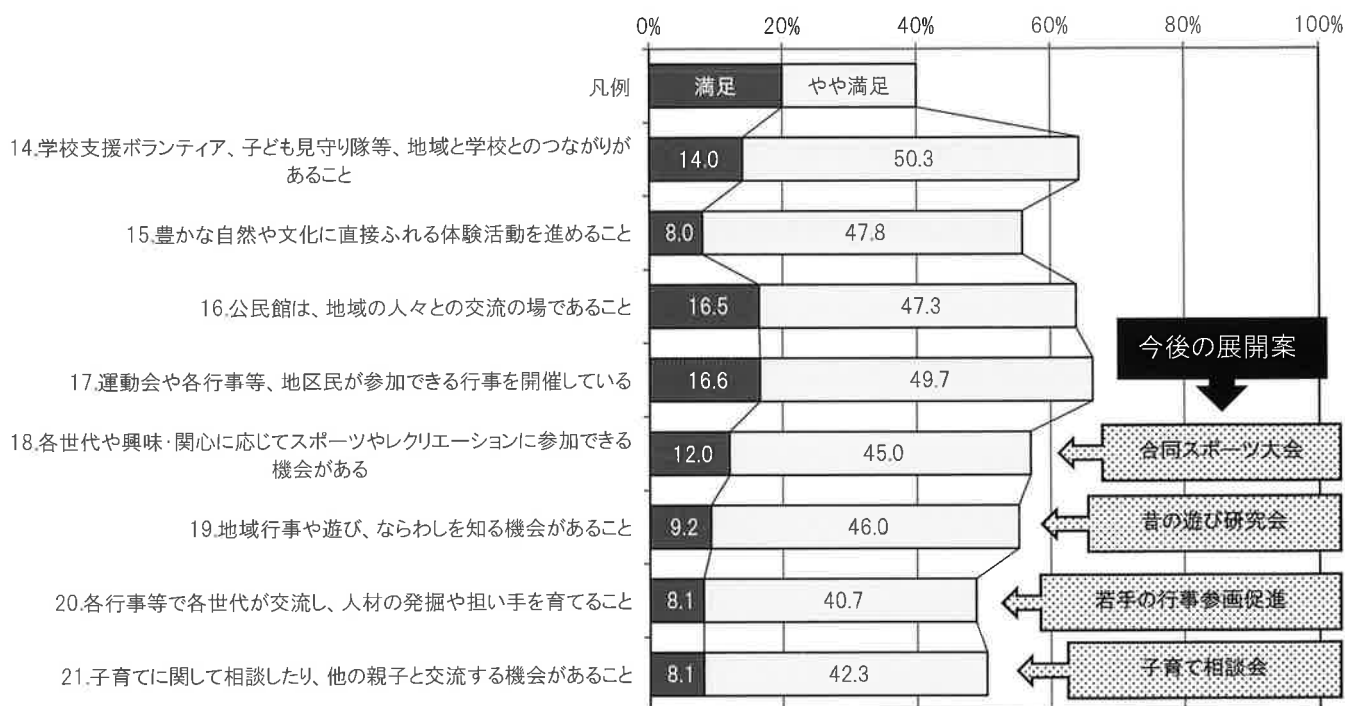
#### (4) 【生涯学習が充実した教育と文化のまち】

～次世代の若手を地域・公民館活動などへの参画を期待している～

生涯学習が充実した教育と文化のまち (重要度)

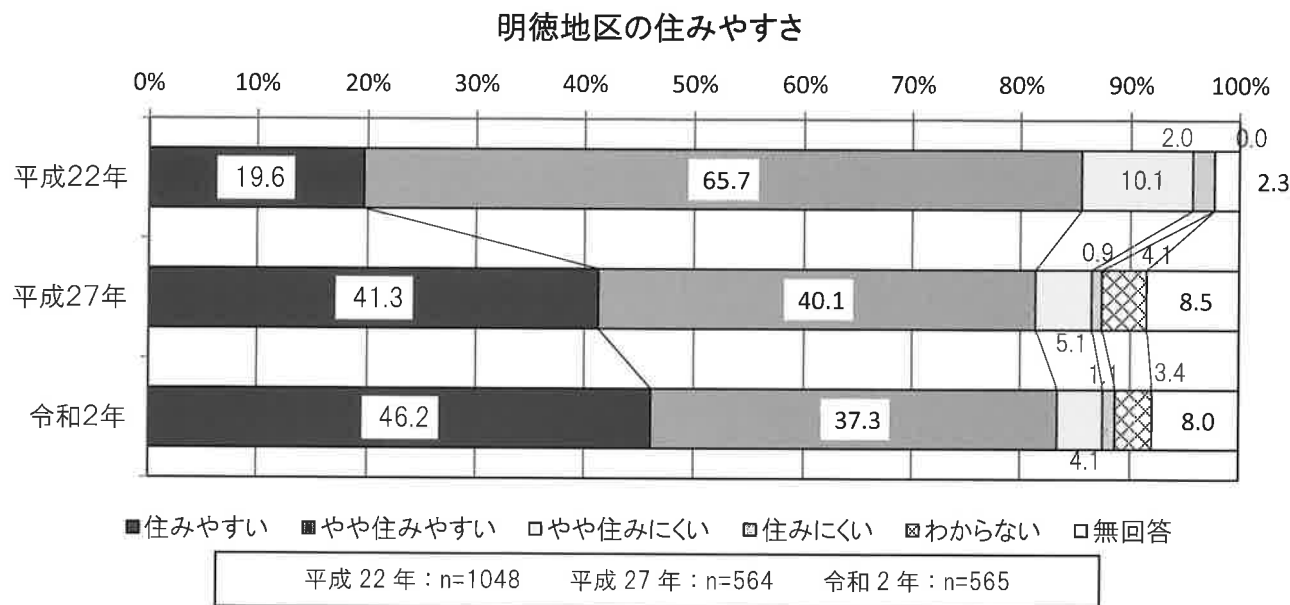


生涯学習が充実した教育と文化のまち (満足度)



問2 明德地区の住みやすさについて

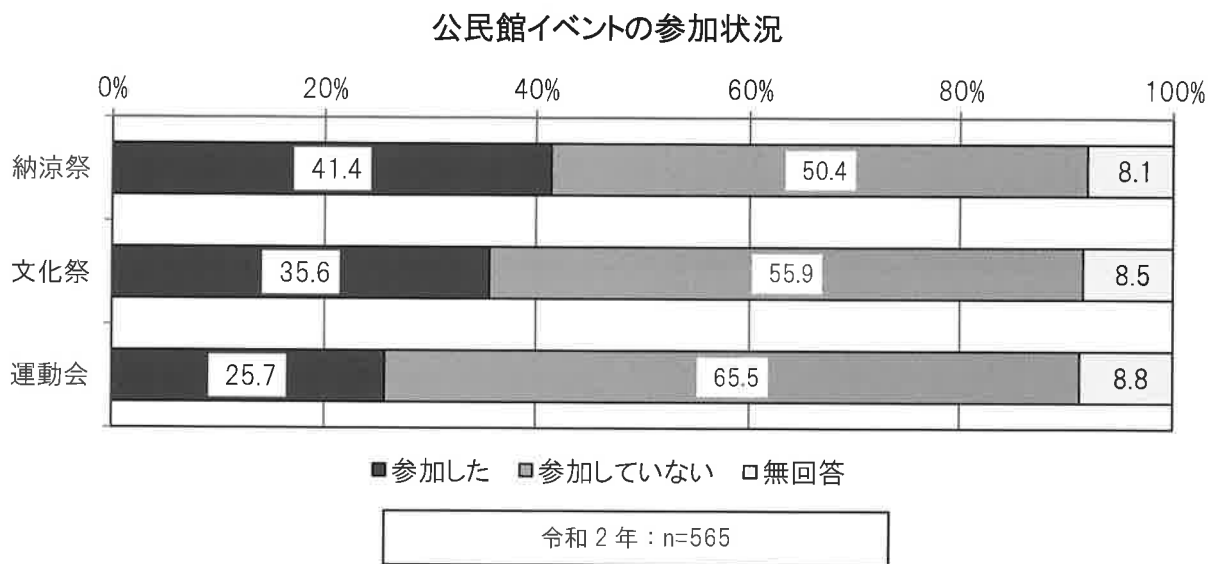
～8割以上の住民が「明德地区は住みやすい」～



問3 明德地区の主な行事への参加状況

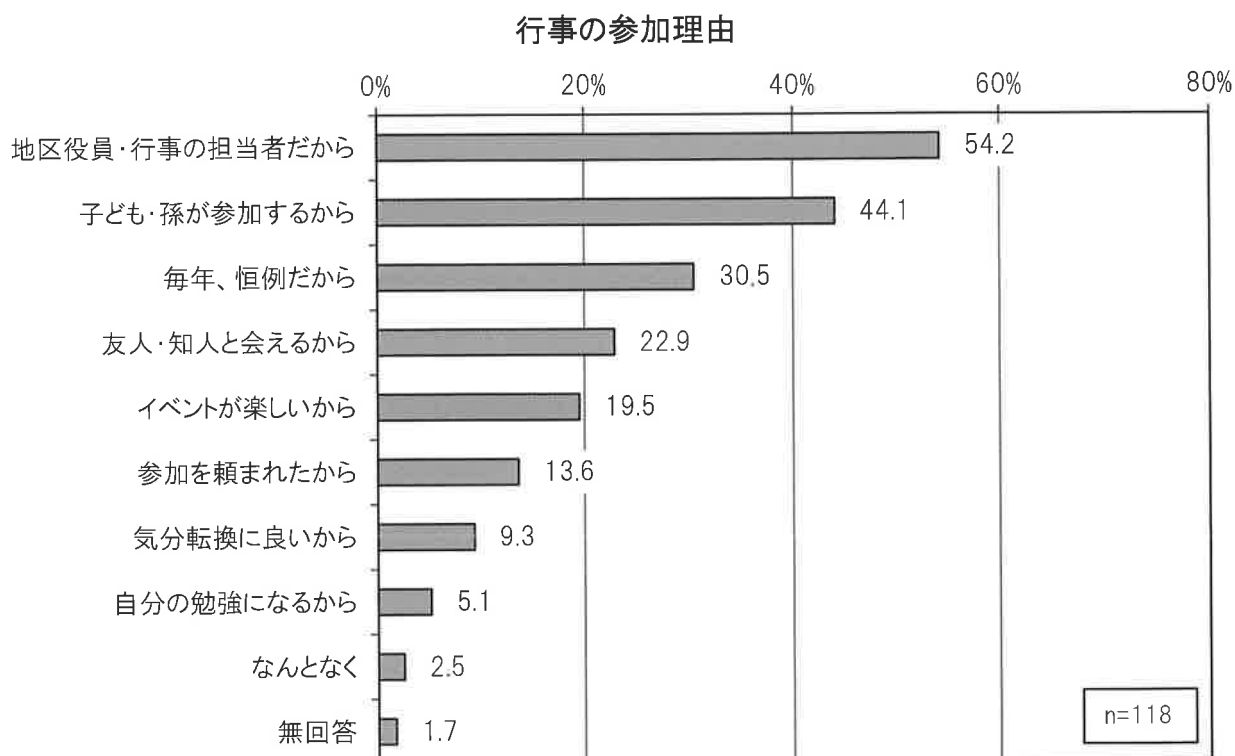
(1) 納涼祭・文化祭・運動会の参加状況

～納涼祭 40%、文化祭 35%、運動会 25%の参加～



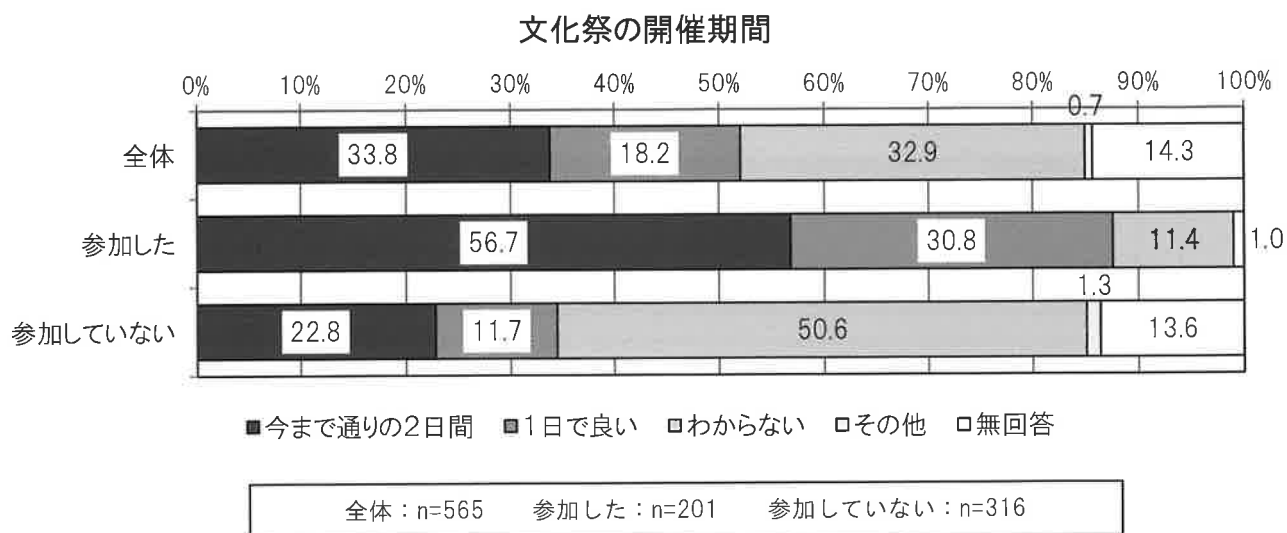
(2) 納涼祭・文化祭・運動会の参加理由

～「地区役員・行事担当者だから」「子ども・孫が参加するから」が圧倒的に多い理由～



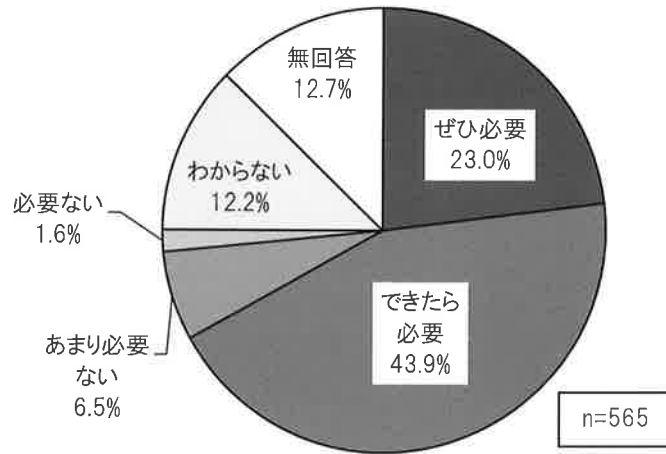
(3) 文化祭の開催期間について

～「今まで通り2日間」が3割以上と最も多い～



(4) 毎年の各種行事に、中学生や高校生等の次世代の方々の参加・参画について  
 ～「ぜひ必要」「できれば必要」が7割弱と、次世代の参画を希望～

次世代の各種行事への参画希望

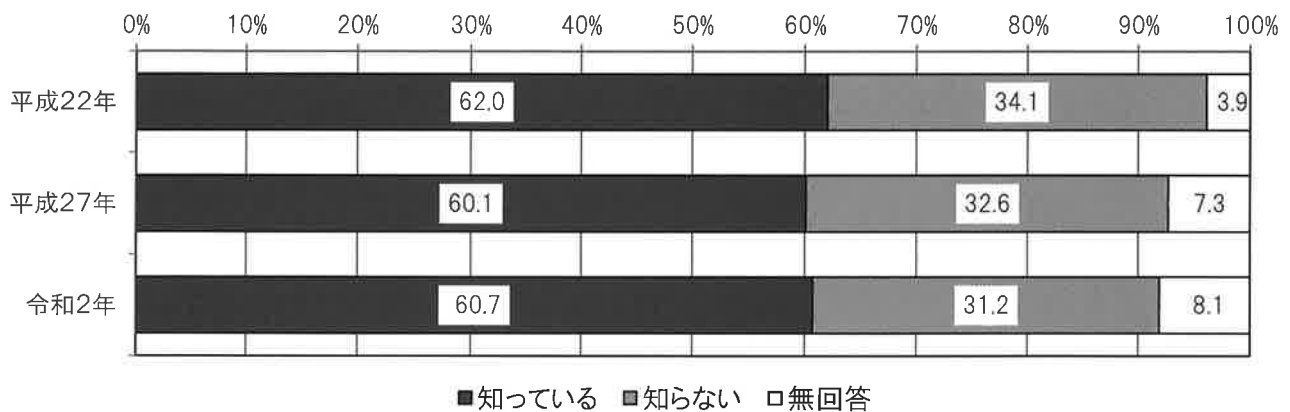


問4 防災対策と災害時における対応について

(1) 一次避難場所、二次避難場所の周知

～前回とほぼ同様に約6割が避難場所を周知～

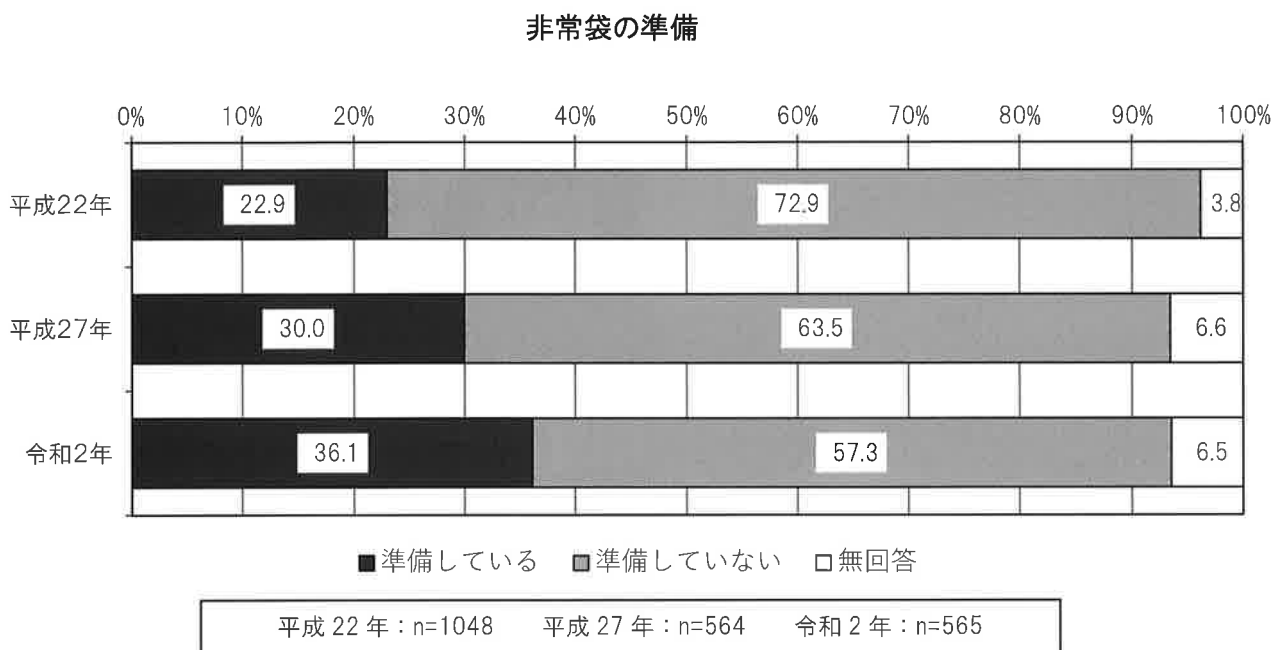
避難場所の周知



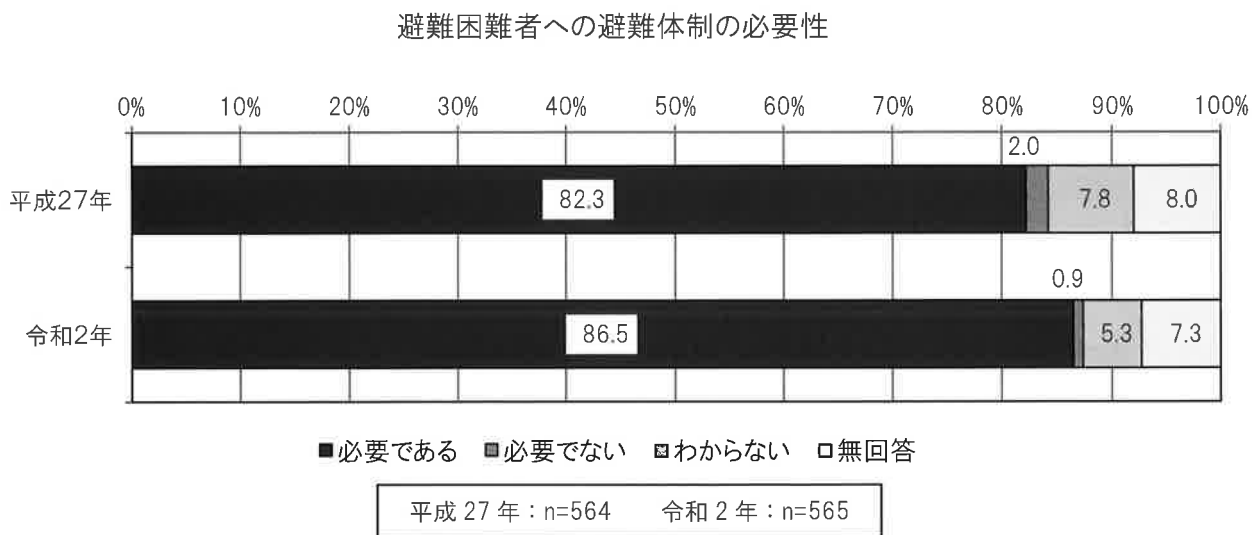
平成22年：n=1048    平成27年：n=564    令和2年：n=565



(2) 災害時の非常袋（懐中電灯、ラジオ、救急医薬品、水、食料等）の準備  
 ～前回調査と比較し、「準備している」人が増加～

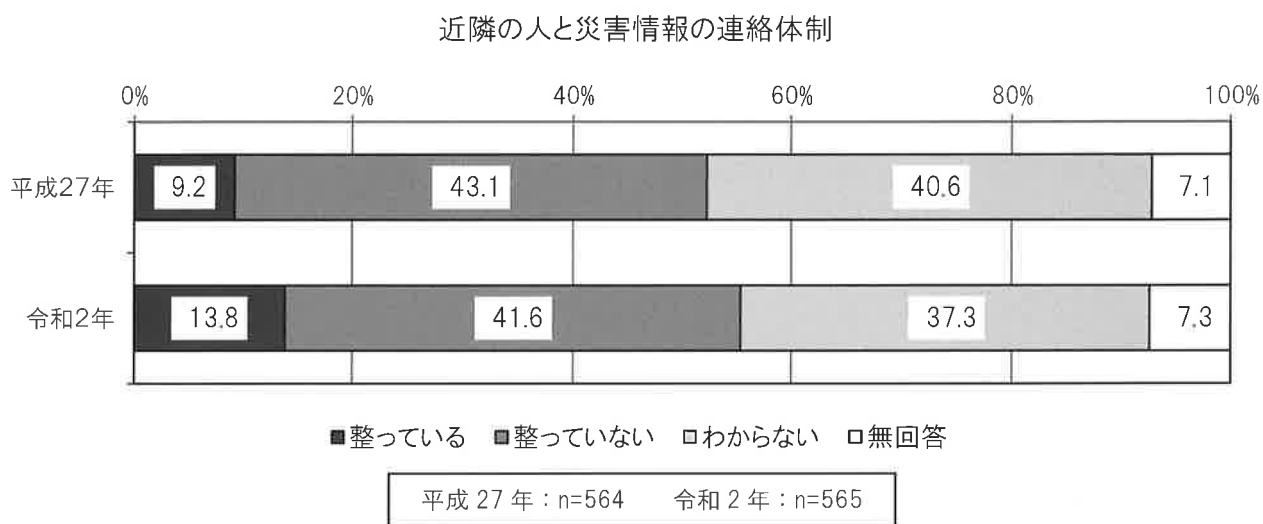


(3) 自力で避難できない方の避難体制の必要性  
 ～前年調査より、避難困難者への避難体制が必要とする意見が増加～



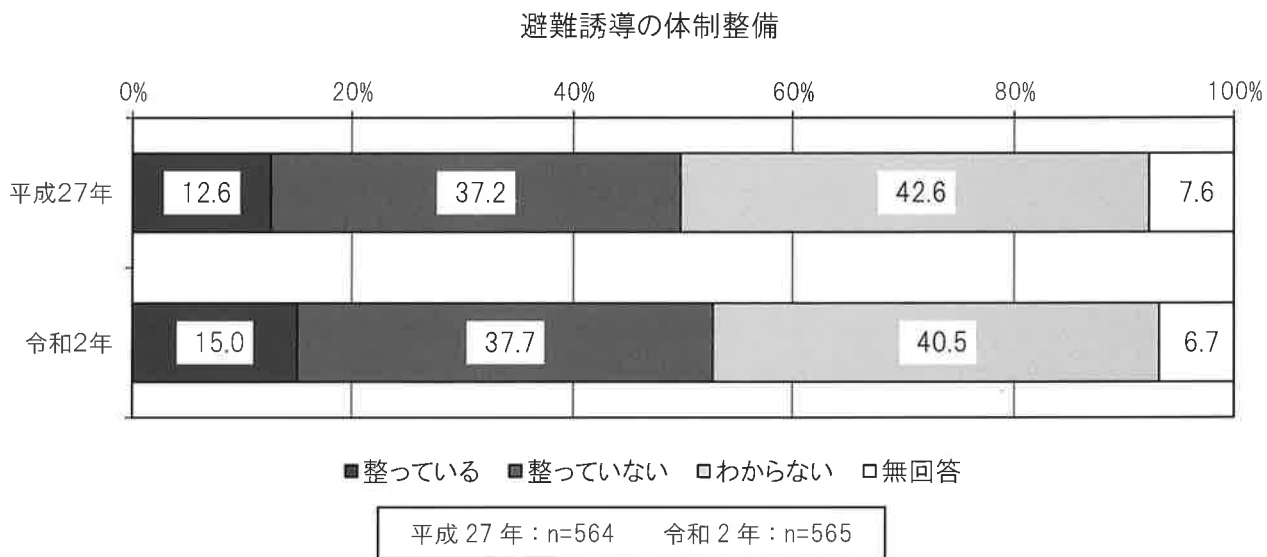
#### (4) 災害時の情報の共有体制

～災害情報の共有体制は、微増するも、依然整っていない意見が多い～



#### (5) 避難誘導の体制整備

～「整っている」意見が微増も、依然として「整っていない」「わからない」が多い～



南行徳



有楽



瓦町



今町二丁目



今町二丁目  
棒鼻



行徳四区



鳥取県無形民俗文化財「聖神社・神幸大祭」に  
明德地区から参加している屋台

## 元気で輝く 明德地区協議会

～心豊かで安全・安心なまちづくり～

事務局：明德地区公民館

〒680-0824 鳥取市行徳一丁目210-2

TEL 0857-23-0988 FAX 0857-23-0993